

ONTARIO
SUPERIOR COURT OF JUSTICE
(COMMERCIAL LIST)

THE HONOURABLE MR.)

THURSDAY, THE 17th

JUSTICE HAINEY)

DAY OF MAY, 2018



IN THE MATTER OF THE *COMPANIES' CREDITORS*
ARRANGEMENT ACT, R.S.C. 1985, c. C-36, AS AMENDED

AND IN THE MATTER OF TK HOLDINGS INC., AND THOSE OTHER COMPANIES
LISTED ON SCHEDULE "A" HERETO ("collectively, the "Chapter 11 Debtors")

AND IN THE MATTER OF TAKATA CORPORATION, AND THOSE OTHER
COMPANIES LISTED ON SCHEDULE "B" HERETO (the "Japanese Debtors", and
collectively with the Chapter 11 Debtors, the "Debtors")

APPLICATION OF TK HOLDINGS INC. AND TAKATA CORPORATION UNDER
SECTION 46 OF THE *COMPANIES' CREDITORS ARRANGEMENT ACT*

ORDER RECOGNIZING JAPANESE SALE APPROVAL

THIS MOTION, made by Takata Corporation in its capacity as foreign representative (the "**Japanese Foreign Representative**") of the Japanese Debtors, pursuant to the *Companies' Creditors Arrangement Act*, R.S.C. 1985, c. C-36, as amended, for an order that, among other things, recognizes and gives full force and legal effect in all provinces and territories of Canada to the February 26, 2018 approval (the "**Japanese Sale Approval**") issued by the 20th Department of the Civil Division of the Tokyo District Court in the civil rehabilitation case of the Japanese Debtors under the *Civil Rehabilitation Act* (Japan) authorizing the Japanese Debtors, pursuant to Article 42(1) of the *Civil Rehabilitation Act*, to proceed with the sale of assets not related to airbag inflators containing phase-stabilized ammonium nitrate ("**PSAN**

Inflators”) to Joyson KSS Auto Safety S.A. (“**KSS**”) (the “**Purchased Japanese Assets**”) in accordance with an asset purchase agreement dated as of November 16, 2017 by and among the Japanese Debtors, KSS, and, solely for the purposes of Section 7.22 thereof, KSS Holdings, Inc. (as amended, restated, or supplemented from time to time, the “**Japan APA**”), was heard this day at 330 University Avenue, Toronto, Ontario.

ON READING the Amended Notice of Motion and the affidavit of Hiroshi Kasuya, sworn April 9, 2018 and the exhibits attached thereto contained in the Motion Record of the Japanese Foreign Representative dated April 13, 2018 (the “**Motion Record**”), the Fourth Report by FTI Consulting Canada Inc., in its capacity as Information Officer (the “**Information Officer**”) dated May 8, 2018 (the “**Fourth Report**”), the affidavit of Mitsuhiro Kamiya in Support of the Motion of the Foreign Representative sworn May 16, 2018 (the “**Kamiya Affidavit**”) and the exhibits attached thereto and the affidavit of service of Adrienne Ho, dated April 13, 2018,

AND UPON HEARING the submissions of Canadian counsel for the Japanese Foreign Representative, counsel for the Information Officer, counsel for KSS, and any such other counsel as were present:

Recognition of Japanese Sale Approval

1. **THIS COURT ORDERS** that the Japanese Sale Approval, the certification of which is attached hereto as Schedule “C” with an unofficial English translation, and the legal effect of which is described in the Kamiya Affidavit and includes that KSS purchased the Purchased Japanese Assets in accordance with the terms of the Japan APA, free and clear of all Liens except for the Assumed Liabilities and the Permitted Liens (as each term is defined in the Japan

APA) is hereby recognized and given full force and effect in all provinces and territories of Canada.

Information Officer

2. **THIS COURT ORDERS** that the Fourth Report and the activities of the Information Officer described therein be and are hereby approved.

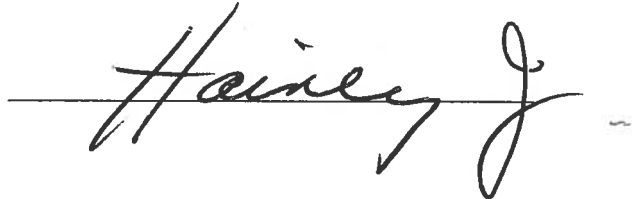
Correction to Confirmation Recognition Order

3. **THIS COURT ORDERS** that the Confirmation Recognition Order granted by this Court on March 14, 2018 be and is hereby amended to replace the date “February 16, 2018” in paragraph 3(a) thereof with the date “February 21, 2018”.

Aid and Assistance

4. **THIS COURT HEREBY REQUESTS** the aid and recognition of any court, tribunal, regulatory or administrative body having jurisdiction in Canada, the United States of America or elsewhere, to give effect to this Order and to assist the Debtors, the Japanese Foreign Representative, the Information Officer, and their respective agents in carrying out the terms of this Order. All courts, tribunals, regulatory and administrative bodies are hereby respectfully requested to make such orders and to provide such assistance to the Debtors, the Japanese Foreign Representative, and the Information Officer, the latter as an officer of this Court, as may be necessary or desirable to give effect to this Order, or to assist the Debtors, the Japanese Foreign Representative, and the Information Officer and their respective agents in carrying out the terms of this Order.

5. **THIS COURT ORDERS** that each of the Debtors, the Japanese Foreign Representative and the Information Officer be at liberty and is hereby authorized and empowered to apply to any court, tribunal, regulatory or administrative body, wherever located, for the recognition of this Order and for assistance in carrying out the terms of this Order.

A handwritten signature in cursive script, appearing to read "Hainey J.", is written over a horizontal line.

ENTERED AT / INSCRIT À TORONTO
ON / BOOK NO:
LE / DANS LE REGISTRE NO:

MAY 17 2018

PER / PAR:

A handwritten signature in cursive script, appearing to be a monogram or initials, is written next to the text "PER / PAR:".

SCHEDULE "A" – Chapter 11 Debtors

1. TK Holdings Inc.
2. Takata Americas
3. TK Finance, LLC
4. TK China, LLC
5. TK Mexico Inc.
6. TK Mexico LLC
7. Interiors in Flight, Inc.
8. Takata Protection Systems Inc.
9. TK Holdings de Mexico S. de R.L. de C.V.
10. Industrias Irvin de Mexico, S.A. de C.V.
11. Takata de Mexico, S.A. de C.V.
12. Strosshe-Mex, S. de R.L. de C.V.

SCHEDULE "B" – Japanese Debtors

1. Takata Corporation
2. Takata Kyushu Corporation
3. Takata Service Corporation

Schedule "C" – Japanese Sale Approval with Unofficial English Translation

See attached.

本申請につき、平成30年2月26日 許可があったことを証明する。
前同日 東京地方裁判所民事第20部 裁判所書記官 加賀谷 亨

平成 29 年（再）第 20 号 再生手続開始申立事件

事業譲渡許可申立書
(民事再生法 42 条)

東京地方裁判所民事第 20 部御中

平成 30 年 1 月 22 日

再生債務者 タカタ株式会社

代理人弁護士 小林 信明



第 1 申立ての趣旨

再生債務者が、再生債務者の子会社であるタカタ九州株式会社(以下「TK9」という。)及びタカタサービス株式会社(以下、「TKS」という。)とともに、Joyson KSS Auto Safety S. A. 及びその子会社、関係会社(以下、個別に又は総称して「KSS」という。)に対して、①添付資料 1 の Japan Asset Purchase Agreement (以下、本変更契約を含むその後の変更も含み「Japan-APA」という。)、②添付資料 2 の First Amendment to Asset Purchase Agreement、③添付資料 3 の Second Amendment to Asset Purchase Agreement、及び④添付資料 4 の Third Amendment to Asset Purchase Agreement (以下、②乃至④を合わせて「本変更契約」という。)に基づき、再生債務者の一部事業を譲渡すること

につき許可を求める。

第2 申立ての理由

1 はじめに

再生債務者並びにその世界各国の子会社及び関連会社（以下総称して「再生債務者グループ」という。）は、相安定化硝酸アンモニウムを用いたインフレーター（以下「PSANインフレーター」という。）に関連する事業及び資産を除き、再生債務者グループがグローバルに行っている事業の実質的に全てをKSSに譲渡する予定である。かかるグローバルな事業譲渡は、再生債務者グループの事業のうち、①日本及びその他のアジア諸国等における事業の譲渡契約である Japan-APA、②米国、メキシコ及び南米等における事業の譲渡契約（以下「US-APA」という。）、③欧州等における事業の譲渡契約（以下「EMEA-APA」という。）、及び④再生債務者の中国子会社である Takata (Shanghai) Automotive Component Co., Ltd.（以下「TSAC」という。）における事業の譲渡契約（以下「TSAC-APA」という。今後締結予定である。）の4つの事業譲渡契約によって行われる予定である。そして、①Japan-APAについては平成29年11月16日付で締結済みであり、また、平成30年1月15日付で監督委員による同意を得ているため、本申立書において Japan-APA に基づく事業譲渡を再生計画外で行うことの許可（民事再生法42条1項）を求める次第である。

2 Japan-APA の締結に至る経緯

- (1) 再生債務者グループは、種々の製品、特に PSAN インフレーターを搭載したエアバッグ・モジュール（以下「本エアバッグ」という。）を製造し、自動車製造会社（以下「OEM」という。）に対して販売している。本エアバッグについては、ガスを発生させてエアバッグを膨張させる部品である PSAN インフレーターが破裂し、その部品の金属片による死亡事故等が生じるなど、PSAN インフレーターに関連する不具合が判明した。そのため、平成20年11月以降、各 OEM は、本エアバッグを搭載す

る車種について自主回収を含むリコールを実施し、その対象範囲も拡大していった。かかる状況を受けて、再生債務者の米国子会社である TK HOLDINGS INC. (以下「TKH」という。)は、平成27年5月及び11月、米国運輸省道路交通安全局(以下「NHTSA」という。)との間で、①本エアバッグ製品に関し追加的なリコールを実施すること、及び②TKHに対して70百万米ドルの民事制裁金を分割して支払う義務を課すこと等を主な内容とする同意指令(Consent Order)に合意した。国土交通省も、再生債務者に対し、その後まもなく日本国内のPSANインフレーターに関するリコールを拡大することを指導した。再生債務者グループは、上記の一連のリコール(以下「本リコール」という。)に関連してOEMが負担した費用等について、OEMから求償権その他の権利(以下「本リコール債権」という。)を請求され、又は請求されることが想定されており、その額が増額することが見込まれた。また、本エアバッグの不具合に関連して、再生債務者に対し、損害の賠償等を求める多数の訴訟が提起され、かつ、今後も同様の訴訟を提起されることが予想された。

- (2) 再生債務者は、かかる状況を受けて、平成28年2月、再生債務者グループの再建計画を策定するため、事業再生の専門家5名から構成される外部専門家委員会(以下「SC」という。)を設置し、SCに対して再生債務者グループの再建計画の策定を委任した。SCは、再生債務者グループの最大の債権者であって、かつ、再生債務者グループが事業を継続する上で最も重要な取引先であるOEMが、再生債務者グループによる製品の品質管理の観点から自力再建型ではなくスポンサー型の再建を希望したこと等に鑑み、再生債務者としてはスポンサーを選定することを決め、平成28年5月、再生債務者と協議の上、再生債務者グループのスポンサー選定を主導するフィナンシャル・アドバイザーとして、Lazard Frères & Co. LLC及びLazard Frères 株式会社(以下併せて「Lazard」という。)を選任した。SC

及び Lazard は、再生債務者グループの事業がグローバルな規模で相互に深く関連しており、また、重要な取引先である OEM もグローバルでの供給体制を要求していることから、再生債務者グループ全体の売却価値を最大化するためには、その事業全体（但し PSAN インフレーターに関連する事業及び資産を除く。）を一体として売却することが望ましいと判断し、再生債務者と協議のうえ、グローバルで単一のスポンサーを選定することとした。

- (3) Lazard は、平成 28 年 6 月、再生債務者グループに対して本リコール債権を有する主要な OEM の初期的な意向を聴取した上で、スポンサー候補者としてグローバルベースで 40 社に接触し、スポンサー候補を幅広く探索した。その後、Lazard の主導のもとで、多数のスポンサー候補が参加し、①再生債務者グループに対するデュー・ディリジェンス、②再生債務者グループの世界各国の工場施設等における現地訪問、③再生債務者グループによるマネジメント・プレゼンテーション、④スポンサー候補、OEM 及び再生債務者グループのマネジメントが参加する会議を複数回行うなど、再生債務者グループのスポンサー選定手続が進められた。
- (4) 平成 29 年 1 月 13 日、再生債務者は、米国司法省（以下「DOJ」という。）との間で司法取引契約を締結し（以下「本司法取引」という。）、これに基づき本司法取引に記載された行為の被害者である OEM を対象とした補償基金に 850 百万米ドル（以下「DOJ 補償金」という。）を拠出する義務を負うこととなった。上記(2)のとおり、本司法取引の締結以前から再生債務者グループはスポンサーによる支援に基づいて再建することが想定されていたため、本司法取引上、かかる DOJ 補償金の支払いは、スポンサー契約を平成 30 年 2 月 27 日までにクロージングしたうえで、当該クロージングから 5 日以内に行わなければならないものとされている。本司法取引上、再生債務者が、かかる拠出義務を上記期限までに履行することができない場合（当該拠出は、再生債務者の子会社・関連会社によって拠出す

ることも可能とされている。)には、米国司法省は本司法取引を解除することができ、米国司法省がかかる解除をした場合には、再生債務者グループに対して訴追を行う可能性があることに加えて、本司法取引によって和解的に解決した 850 百万米ドルの拠出金額を超える多額の罰金が科される可能性もある。そのため、再生債務者グループが DOJ 補償金を支払うことは、そのグローバルな事業を一体として再生するために必要不可欠である。もっとも、再生債務者グループは DOJ 補償金を自ら支払う財源がないため、平成 30 年 2 月 27 日までに、グローバルな事業を一体として支援し得るスポンサーとの間でスポンサー契約のクロージングをして、DOJ 補償金の金額を上回るスポンサー資金を受けることが不可欠となった。

- (5) SC は、平成 29 年 2 月 3 日、①KSS が、買収価格として他のスポンサー候補の提示価格を相当程度上回る最高かつ最良のオファー (highest and best offer) を提示したこと、②KSS は競争法上のリスクが他の有力なスポンサー候補と比較して低いため、スポンサー契約をより確実に実行することができると思われること、③KSS においてはデュー・ディリジェンスが相当程度進捗していること、及び④再生債務者グループの主要顧客であってスポンサーの顧客となる OEM により構成されるカスタマーグループ (以下「CG」という。) が、KSS を推薦する旨の意思を示したこと等を踏まえて、再生債務者に対し、再生債務者グループのスポンサー候補として KSS を推薦した。その後、再生債務者グループ、KSS 及び OEM との間で、再生債務者グループの事業を KSS に承継させるための契約条件に関する交渉が集中的に進められ、まずは、再生債務者及び KSS の間において、平成 29 年 6 月 26 日、再生債務者が再生手続開始の申立てを行う前に、再生債務者グループの資産及び事業の譲渡につき、法的拘束力のない基本合意が締結されるに至った。
- (6) 再生債務者が同日に再生手続開始の申立てを行った以降も、再生債務者グループ

は、KSS との間で最終契約締結に向けて協議・交渉を進め、再生債務者グループ及びKSS は、監督委員の同意を得たうえで、平成 29 年 11 月 16 日付で US-APA 及び EMEA-APA を締結した。また、Japan-APA についても監督委員の同意を得ることを停止条件として添付資料 1 の内容で同日付で締結済みであり、また、平成 30 年 1 月 15 日付で監督委員による同意を得ている状況である。

3 Japan-APA 締結の必要性

(1) Japan-APA に基づく事業譲渡を行うことが再生債務者の事業の再生のために必要であること（民事再生法 42 条）

前記 2(1)のとおり、再生債務者グループは多額の本リコール債権の請求及び本エアバッグの不具合に関連する訴訟の提起を受けて財務的な危機に瀕しており、抜本的な事業再建を図る必要がある。そして、再生債務者グループの最大債権者であり、かつ、再生債務者グループの事業を継続する上で最も重要な取引先である OEM は、再生債務者グループによる製品の品質管理及びグローバル供給体制の維持という観点から、グローバルな事業を売却できるスポンサー型の再建を支持している。また、再生債務者は本司法取引に基づき、KSS への売却のクロージングを条件として 850 百万米ドルもの DOJ 補償金を拠出する義務を負っているところ、前記 2(4)のとおり、再生債務者グループが DOJ 補償金を支払うことはそのグローバル事業を再生するために必要不可欠であり、そのためにはスポンサーとの間で事業譲渡契約をクロージングし、DOJ 補償金の金額を上回る事業譲渡代金の支払を受けることもまた不可欠である。

以上より、再生債務者グループが KSS との間で Japan-APA に基づく事業譲渡を行うことは、再生債務者の事業の再生のために必要である（民事再生法 42 条）。

(2) 計画外事業譲渡による必要があること

前記 2(4)のとおり、再生債務者グループは、本司法取引に基づき、平成 30 年 2 月

27日までにスポンサーとの間でスポンサー契約をクロージングし、かかるスポンサー契約のクロージングから5日以内にDOJ補償金を拠出する義務を負っている。一方で、再生債務者の再生計画案の提出期限は平成30年2月28日であるため、かかるDOJ補償金の履行期限を踏まえれば、再生計画に基づく事業譲渡を待つことはできず、計画外事業譲渡（民事再生法42条）によって早期に事業譲渡を実行する必要がある。

4 グローバルな事業譲渡全体の相当性

(1) KSSが公正な手続により適正にスポンサーとして選定されたこと

再生債務者グループのスポンサー選定手続は、前記2のとおり、SCの下で、事業再生局面におけるスポンサー選定について実績及び専門的知見のあるフィナンシャル・アドバイザーのLazardによって主導されたものである。また、SC及びLazardは、再生債務者のスポンサー候補者として考えうる候補者に広くグローバルで接触するとともに、再生債務者グループの最大の債権者であり、かつ、再生債務者グループの事業を継続する上で最も重要な取引先でもあるOEMにも、スポンサー候補者がほかにいるようであれば推薦するよう求めた。したがって、スポンサーの選定過程においては、適切かつ公平な手続が履踐されているといえる。

また、最終的にスポンサーとして選定されたKSSは、買収価格として他のスポンサーによる提示価格を相当程度上回る最高価格である15億8800万米ドルを提示しており、かかる価格は本司法取引に基づく8億5000万米ドルの拠出義務を履行するに足りるものである。また、KSSは競争法上のリスクが他の有力なスポンサー候補と比較して低いため、グローバルの供給体制を維持したままでスポンサー契約をより確実に実行することができ、また、競争当局からの当該取引の承認に要する期間もより短期間となることが予想される。さらに、再生債務者グループは、OEMとの協議の結果、再生債務者グループの最大の債権者であってかつ主要顧客であるOEMはKSSへの事業譲

渡を支持していると理解している。加えて、KSS は、エアバッグ等の自動車安全部品をグローバルで製造・供給している会社であるため、再生債務者グループの事業を譲り受けて、事業を遂行する十分な能力を有しているといえる。

(2) グローバルな事業譲渡全体の構造

再生債務者グループは、PSAN インフレータに関連する事業及び資産を除き、再生債務者グループがグローバルに行っている事業の実質的に全てを KSS に譲渡し、KSS は再生債務者グループのグローバルの事業を一体として取得する予定である。かかるグローバルな事業譲渡は、①日本及びその他のアジア諸国等における事業の譲渡契約である Japan-APA、②米国、メキシコ及び南米等における事業の譲渡契約である US-APA、③欧州等における事業の譲渡契約である EMEA-APA、及び④再生債務者の中国子会社である TSAC における事業の譲渡契約である TSAC-APA（前記 1 のとおり、今後締結予定である。）の 4 つの事業譲渡契約によって行われる予定である。KSS との取引がグローバルな性質を有するものであることに鑑み、これらの事業譲渡契約においては、他の事業譲渡契約上の実行条件が成就又は放棄されていることが、それぞれの事業譲渡の実行条件のうちの一つとされており、また、他の事業譲渡契約が解除された場合には、それぞれの事業譲渡契約も解除することができるものとされているため、実質的に一体としての契約をなす。

これらの事業譲渡のスキームについて、①Japan-APA における売主らは再生手続における計画外事業譲渡（民事再生法 42 条）の方法で行い、②US-APA における米国等における売主は米国における法的倒産手続である Chapter 11 における Chapter 11 Plan（民事再生法における再生計画に相応する。）に基づく資産譲渡（asset sale）の方法によって行い、③EMEA-APA 及び④TSAC-APA における売主については、私的整理の枠組みにおける事業譲渡によって行うことが想定されている。

KSS は、前記 2(1)のとおり、再生債務者グループが PSAN インフレータの不具合に関連して本リコール及び訴訟の提起を受けていることを踏まえて、PSAN インフレータに関連するリスクを KSS から遮断するために、再生債務者グループの法人のうち、(i) PSAN インフレータの製造・流通・販売等に関係する法人については、PSAN インフレータに関連する事業・資産・債権債務関係（潜在債務を含む。）を再生債務者グループに残す（すなわち KSS が承継しない）ことを前提とした事業譲渡の方法により PSAN インフレータに関連しない事業を承継し、(ii) PSAN インフレータの製造・流通・販売等に関係しない法人については株式譲渡の方法により法人そのものを承継することを要求した。また、KSS は、(iii) 再生債務者グループの法人のうち KSS にとって事業価値の乏しい一部の法人については承継対象から除外することを要求した。グローバルな事業譲渡における KSS への譲渡対象法人の確定及び譲渡方法については、上記の (i) 乃至 (iii) の KSS の要求を踏まえたものとなっており、再生債務者グループの各法人がどのように扱われているかについては添付資料 5 を参照されたい。

(3) 事業譲渡代金のグローバルな分配の合理性

前記 2(5)のとおり、再生債務者グループがグローバルで KSS から受け取る事業譲渡代金のベースとなる金額の総額（KSS がスポンサー手続の最終提案書において提案した金額）は、15 億 8800 万米ドル（以下「本事業譲渡代金総額」という。）である。再生債務者グループから KSS へのグローバルな事業譲渡は、前記 4(2)のとおり、Japan-APA、US-APA、EMEA-APA 及び TSAC-APA の 4 つの事業譲渡契約に基づいて行われるため、本事業譲渡代金総額は、これらの各事業譲渡契約に配分される必要がある。

各事業譲渡契約への譲渡金額の配分額の算出はフィナンシャル・アドバイザーである Lazard のサポートの下、また、KSS のフィナンシャル・アドバイザーである Jefferies LLC との合意に基づき算出された。かかる配分額の算出にあたって、まず、

①再生債務者グループのうち私的整理のもとで（株式譲渡ではなく）事業譲渡が行われる欧州・メキシコ・中国の各法人に関しては第三者専門機関が評価した公正市場価値を配分し（なお、第三者専門機関が評価した公正市場価値を採用することについてはKSSからの要望であった。）、②法的整理手続のもとで譲渡されるその他の法人（子会社の株式譲渡を含む。）に関しては、（i）本事業譲渡代金総額から①を控除した残額について、関係会社間の貸借やのれんの控除等の調整を行った後の調整後純資産について、グループ全体に占める割合に基づいてまず配分し、（ii）調整後純資産の割合に基づいて配分された金額が当該法人の清算価値を下回る場合には、清算価値に満つるまで、調整後純資産の割合に基づいて配分された金額が清算価値を上回る法人に配分された金額から、プロラタベースで、清算価値を下回る法人に対して再配分される。

このように、法的整理手続のもとで譲渡される法人については純資産を基準として配分を行っているが、これは再生債務者グループの事業譲渡後の事業計画が、KSSから開示されておらず、そのため事業計画をもとに算定した将来キャッシュ・フローに基づく配分が不可能である状況において、（i）純資産は直近の監査済み財務諸表に基づくものとして客観性があり、かつ、（ii）各法人ごとに数字を取得することができるため、譲渡代金の配分を行いやすいという利点があり、算定基準として合理性を有する。なお、本事業譲渡代金総額の配分の基準となった純資産は、監査済み財務諸表上の数値をそのまま使用したものではなく、各法人ごとの価値を正確に把握する観点から、連結調整額の調整やのれん等の控除等の調整を行った後の金額を基準としている。

かかる本事業譲渡代金総額のグローバルな配分の方法は、各事業譲渡契約において譲渡対象となる法人の価値に従って客観的になされたものであり、合理性を有する。

(4) DOJ 補償金のグローバルな分配の合理性

前記 2(4) のとおり、再生債務者は、グループとして、DOJ との間で締結した本司法取引に基づき、OEM を対象とした補償基金に 850 百万米ドルの DOJ 補償金を拠出することを予定している。かかる DOJ 補償金を再生債務者グループのどの法人が拠出するかについてのグローバルな配分は、以下の基準に従って行われる。

- ① すなわち、まず、PSAN インフレーターを具備するエアバッグの製造・販売に関与している法人（以下「DOJ 補償金負担法人」という。）を特定し、DOJ 補償金の一部を負担させる。DOJ 補償金は、PSAN インフレーターを具備したエアバッグを購入した OEM の損害を補償するという性格を有することから、DOJ 補償金負担法人に DOJ 補償金を拠出させるのが合理的であると考えられる（DOJ 補償金負担法人間の具体的な配分方法については、②及び③に記載のとおり。）。
- ② DOJ 補償金負担法人のうち、再生債務者グループのうち各事業譲渡契約における主要売主（ultimate parent）である再生債務者、TK Holdings Inc.（以下「TKH」という。）、Takata Europe（以下「TKEUR」という。）、Takata AG（以下「TKAG」という。）及び Takata Sachsen GmbH（以下「TKSAC」という。）を除く各法人は、税負担や清算費用等の本件の取引に付随して要する費用を控除した後の本事業譲渡代金総額からの配分金額の全額を当該法人からの DOJ 補償金として拠出する。
- ③ そして、850 百万米ドルから上記各法人が拠出した DOJ 補償金を差し引いた残額については、DOJ 補償金負担法人のうち、再生債務者グループのうち各事業譲渡契約における主要な売主（ultimate parent）である再生債務者、TKH、TKAG 及び TKSAC が、PSAN インフレーターの出荷台数の割合に応じてプロラタベースで負担するものとされている。かかる DOJ 補償金の配分基準は、外部債権者を有する主要売主（ultimate parent）による負担額をできる限り減らすとともに、主要売主間においては PSAN インフレーターの出荷台数に応じて分配するものであり、合理

的であるといえる。

(5) RTK 関連費用のグローバルな分配の合理性

再生債務者グループとしてリコール支援を継続するために、一部の取引先からは、KSS への事業譲渡後においても PSAN インフレータの供給を継続することを求められており、特定の PSAN インフレータの継続的な供給が確保されることが再生債務者グループの再建の必須条件となっている。一方、前記 4(2)のとおり、KSS は PSAN インフレータに関係するリスク及び責任を遮断する観点から PSAN 関連資産は承継しないことを再生債務者グループのスポンサーとなることの前提としている。そのため、再生債務者は、グループに残る各法人（以下「RTK」という。）において PSAN 関連事業を継続する必要がある。

RTK が事業を継続するにあたっては、①PSAN インフレータの輸送・保管・廃棄に要する費用、②NHTSA 及び DOJ が PSAN 関連事業を監視するために設置されたモニターに関する費用、③DOJ 補償金の分配を実施するスペシャル・マスターに支払う費用、④ PSAN インフレータ製造のための設備投資費用、及び⑤乾燥剤入りインフレータの安全性検証のために要する人件費や間接費などの各種費用（以下総称して「RTK 関連費用」という。）の拠出が必要となる。RTK 関連費用については、以下の処理が想定されている。

すなわち、まず、①の PSAN インフレータの輸送・保管・廃棄に要する費用については、再生債務者グループ内において各地域別に負担するものとされている。その上で、再生債務者は、KSS への事業譲渡のクロージングまでの間に OEM から受領した PSAN インフレータの輸送・保管・廃棄に要する費用についてのみ負担するものとされており、クロージング後については、OEM が（OEM が自ら行うか、又は RTK に対して業務委託するかのいずれかの方法により）負担することが予定されている。また、②、③、

④及び⑤の各費用については、各事業譲渡契約における主要な売主である再生債務者、TKAM、TKH、TKEUR、TKSAC 及び TKAG が、それぞれの既存又は潜在的なリコールの対象である PSAN インフレータの出荷台数の割合に応じて負担するものとされている。加えて、KSS は、RTK に必要な費用に不足が生じた場合に、KSS、OEM、及び再生債務者グループにて別途締結した平成 29 年 11 月 16 日付 Backstop Agreement（その後の変更を含む。）に基づき、一定額を上限として RTK 関連費用の一部（同契約において PSAN Legacy Cost と定義されているもの）を負担することが想定されている。

なお、再生債務者が抛出した RTK 関連費用の再生計画上の取扱いについては後記 5(4)のキャッチアップルールを参照されたい。

かかる配分基準は、①の費用については各地域がそれぞれの地域において要する PSAN インフレータの輸送・保管・廃棄費用を負担するものであり、また、②、③、④及び⑤の各費用については、RTK 関連費用を実質的に再生債務者グループにて配分し、かつ、再生債務者グループ内においては、PSAN インフレータ関連事業に関する費用である RTK 関連コストを PSAN インフレータの出荷台数という客観的な基準に従って配分するものであり、合理的であるといえる。

(6) 小括

以上より、KSS とのグローバルな事業譲渡全体の枠組みは相当であるといえる。

5 Japan-APA に基づく事業譲渡の相当性

(1) Japan-APA の概要

Japan-APA は、前記 4(2)のとおり再生債務者グループから KSS に対するグローバルな事業譲渡の一環として、日本法人である再生債務者、TK9 及び TKS が売主となって、再生債務者グループの日本及びその他のアジア諸国等の事業を譲渡するものである。

Japan-APA の各条項の概要については添付資料 6 を参照されたい。

(2) Japan-APA 上の事業譲渡代金の相当性

Japan-APA 上の事業譲渡代金のうち再生債務者に対して支払われる金額のベースとなる金額は、本事業譲渡代金総額を前記 4(3)に記載した方法で割り付けた金額である約 3 億 1950 万米ドルである（以下「ベース事業譲渡代金」という。Japan-APA 3.1 条に定義されている “Individual Seller Base Price for TKJP” がこれに該当するが、3.2 条に規定されているとおり、一部の再生債務者グループ間における債権債務の取扱いや、専門機関による一部の再生債務者グループ法人の公正市場価格の評価によって事業譲渡金額が調整されたため、Japan APA 3.1 条に記載されている金額とは差異がある。）。ベース事業譲渡代金は、前記 4(1)のとおり公平なスポンサー選定手続において提示された最高金額である本事業譲渡代金総額を、前記 4(3)のとおり合理的な分配方法に従って割り当てられることにより算出されたものであり、適正なものといえる。

このうち再生債務者が実際に受領する金額（以下「調整後事業譲渡代金」という。）は、ベース事業譲渡代金から Japan-APA 第 3.1 条(ii)乃至(xii)に規定された以下の調整項目に基づき一定金額が控除された金額となる（なお、Regional Share Percentages、Cash Allocation Share 及び Purchase Price Share の定義、その他の詳細については添付資料 6 を参照されたい。）。

【ベース事業譲渡代金の調整項目】

- ① Japan-APA において株式譲渡の対象となる再生債務者の子会社が、Japan-APA の締結時点で負担している未払いの金融負債の合計額。なお、かかる未払債務は、Japan-APA のクロージング時点において、KSS が提供する資金を用いて弁済されるものとされている（Japan-APA 3.4 条）。

- ② Japan-APA において株式譲渡の対象となる再生債務者の子会社が、OEM との間で別途締結した OEM Settlement Agreement に基づき支払うべき金額の合計額。なお、かかる金額は、Japan-APA のクロージング時点において、KSS が再生債務者の子会社に代わって支払うものとされている (Japan-APA 3.3(d)条)。
- ③ Japan-APA において事業譲渡又は株式譲渡の対象となる法人が、OEM との間で別途締結した平成 29 年 6 月 26 日付 Accommodation Agreement (以下「Japan-AA」という。) に基づき、Japan-APA のクロージング日までに期限前弁済を受けた売掛金 (Japan-AA が存在しなければクロージング日までに受領できなかったものに限る。) の合計額 (ただし、TK9 又は TKS が期限前弁済を受けた売掛金債権に係る金額を除く。)
- ④ OEM が Japan-APA において事業譲渡又は株式譲渡の対象となる法人に対して Japan-AA に基づく機器オプションを行使した場合には、当該 OEM が行使に際して支払った金額 (ただし、TK9 又は TKS に対して行使された機器オプションに係る金額を除く。)
- ⑤ 再生債務者の事業譲渡に際して KSS に課税される税額。ただし、日本における消費税、中国における増値税、その他これに類する課税 (以下「VAT」という。) を除く。
- ⑥ 再生債務者の事業譲渡に際して KSS に課税される還付対象外の VAT の金額。なお、KSS はかかる控除金額を用いて再生債務者の事業譲渡に際して課税される還付対象外の VAT を自ら支払う。
- ⑦ 再生債務者グループとのグローバルな事業譲渡に際して KSS に課税される還付対象の VAT の総額のうち、Japan-APA の売主らに Regional Share Percentages に従って配分される金額について、再生債務者に Purchase Price Share に基づき配分される金額。なお、KSS はかかる控除金額を用いて再生債務者による事

業譲渡に際して課税される還付対象の VAT を自ら支払い、当該 VAT について実際に還付金を受領した場合には、再生債務者グループ及び KSS との間で別途締結する Regulatory Escrow Agreement に基づき設置される予定である Regulatory Escrow に当該還付金を預け入れるものとする。KSS は、再生債務者グループが競争法に違反したことに基づき各国の当局から課徴金その他の金額を支払うことを義務づけられた場合には、かかる金額のうち 1000 万米ドルを上回る金額について Regulatory Escrow 内の預入金より支払うことができる。KSS は、遅くとも各事業譲渡契約のクロージング後 30 ヶ月後には、Regulatory Escrow 内の預入金の残額を再生債務者グループに対して返還する（再生債務者グループ内が受領する還付金の配分は Regional Share Percentage による。）。

- ⑧ KSS に譲渡される現金及び現金等価物の合計額がグローバルで 4 億 3500 万米ドルを下回る場合には、当該差額のうち、Japan-APA の売主らに Cash Allocation Share に従って配分される金額について、再生債務者に Purchase Price Share に基づき配分される金額。なお、KSS に譲渡される現金及び現金等価物の合計額が 4 億 3500 万米ドルを上回る場合には、グローバルにおける合計額 5000 万米ドルを上限として、超過額について同様の計算方法に基づき配分される金額が再生債務者への事業譲渡代金に上乗せされる。
- ⑨ KSS がグローバルな事業譲渡のために負担した取引費用（上限 5000 万米ドル）のうち、Japan-APA の売主らに Regional Share Percentages に従って配分される金額について、再生債務者に Purchase Price Share に基づき配分される金額。このように、大規模な買収案件において買い手側が負担した専門家費用等の取引費用を負担することは、米国等の実務においても見られることがあり、再生債務者グループが KSS の負担した取引費用の一部を負担することは不合理とはいえない。

- ⑩ Japan-APA において事業譲渡又は株式譲渡の対象となる法人が、DOJ 補償金に関連して OEM により相殺を受けた場合、かかる相殺額（ただし、TK9 又は TKS に対して割り付けられるべき金額を除く。）。

上記の控除項目は、本来再生債務者グループが負担すべき金額を KSS が肩代わりして支払う場合や、当事者が前提としている企業価値評価に変動を生ずる事由が発生した場合等において、当該金額を一定の客観的基準に従って再生債務者グループ間で配分したうえでベース事業譲渡代金から控除するものであるから、いずれも相当なものである。また、後記 8(2) のとおり、再生債務者が KSS との事業譲渡を実行して調整後事業譲渡代金を受領した場合には、再生債務者が清算した場合の配当率を超える配当を再生債権者に対して行うことが可能である。したがって、Japan-APA 上の事業譲渡代金の定めは全体として相当なものといえる。

(3) 再生債務者による DOJ 補償金の負担の相当性

前記 2(4) のとおり、再生債務者グループは本司法取引に基づき、OEM を対象とした補償基金に 850 百万米ドルの DOJ 補償金を拠出することになっており、再生債務者はこのうち前記 4(4) 記載の基準で配分された金額である約 1 億 1320 万米ドル（以下「DOJ 補償金負担額」という。）を受領する譲渡代金から支払うものとされている（Japan-APA 3.3(a) 条）。かかる再生債務者による DOJ 補償負担額の支払いは、再生債務者グループのグローバルな事業を継続するために必要不可欠である DOJ 補償金の支払いについて、合理的な基準によって再生債務者グループ内で配分された金額を支払うものであるため、相当なものといえる。

また、OEM は、一般債権者としての配当に加え、本司法取引に基づいて設置される基金のもとで、DOJ 補償金からも補償を受けることが想定されている。そのため、再生計画において、債権者の公平かつ平等な取扱を確保するため、再生債務者による DOJ

補償金への拠出額は、OEM が再生債務者に対して有する再生債権の弁済とみなし、他の再生債権者が、その確定再生債権につき OEM と同様の割合まで再生計画による弁済を受けない限り、OEM はその再生債権について、再生計画からの弁済を受けられない旨の定め（キャッチアップルール）を設けることを予定しており、OEM もこれに合意している。かかる取扱いは、衡平の見地から、OEM 以外の他の債権者の利益をより保護することを図るものである。

(4) 再生債務者による RTK 関連費用の負担の相当性

前記 4(5) のとおり、再生債務者グループは RTK 関連費用を拠出する必要があり、再生債務者はそのうち一定の基準で配分された金額である約 4460 万米ドル（ただし、今後若干の増加が見込まれる。）を調整後事業譲渡代金から支払うものとされている（Japan-APA 3.3(c) 条）。かかる再生債務者による RTK 関連費用の支払いは、KSS への事業譲渡の前提となっている再生債務者グループにおける PSAN 事業の継続のために必要不可欠な費用について、合理的な基準によって再生債務者グループ内で配分された金額を支払うものであるため、相当なものといえる。

また、KSS に対する事業譲渡を支援する一環として、また、本事業譲渡許可に対する承認を取得するための条件として、OEM は、再生債務者が支払った RTK 関連費用の範囲で、再生債務者に対する再生債権について一部弁済を受けたものと見做すことに合意したため、再生計画においては、他の債権者が OEM と同様の割合まで再生計画による弁済を受けるまで、OEM は再生計画による弁済を受けられない旨の定め（キャッチアップルール）を設けることを予定している。かかる取扱いは、衡平の見地から、OEM 以外の他の債権者の利益をより保護することを図るものである。

(5) 従業員の処遇の相当性

KSS は、Japan-APA において、クロージング時に勤務している再生債務者の従業員の原則として全員（派遣社員、契約社員、及びアドバイザー等の臨時雇い従業員は除く）に対して、雇用のオファーを行うものとされており、そのKSSによる雇用条件（福利厚生制度を含む。）は事業譲渡前と同等以上のものとするものとされている。ただし、KSS への事業譲渡後においては、再生債務者グループが行っている事業のグローバルな本社機能は海外に移転することとなるため、再生債務者グループが事業譲渡前において有している東京の本社機能は縮小することを余儀なくされる。かかる観点から、KSS は、例外的に、本社機能に従事している従業員についてのみ、売主らと誠実に協議のうえで、雇用のオファーを行わないこともできるものとされている（Japan-APA 8.1 条）。実際にオファーを行わない従業員の範囲については、KSS が今後再生債務者との間で協議のうえで決定することが想定されている。

以上より、KSS は原則として再生債務者の従業員の雇用を引き継ぐものとされており、かつ、引き継がれる従業員の雇用条件は事業譲渡前と同様以上のものとするものとされているから、再生債務者の従業員は適切に保護されているといえる。

(6) 小括

以上より、Japan-APA の内容は相当なものといえる。

6 Japan-APA に基づく事業譲渡が実行される見込みであること

(1) 概要

Japan-APA の締結後、実際に Japan-APA に基づく事業譲渡が実行されるのは、① Japan-APA が Japan-APA 上規定された当事者の解除権に基づき解除されず、かつ、② Japan-APA に規定された事業譲渡実行の前提条件の全てが成就し、又は放棄された場合である。かかる解除権又は事業譲渡実行の前提条件のうち特に重要なもの（解除権）

は以下のとおりであるところ、これらの解除権はいずれも成就または放棄されたため、Japan-APA に基づく事業譲渡は実行される見込みであるといえる。

(2) Non-Consenting OEM からの同意取得

Japan-APA 上、KSS が OEM との間で将来のリスク分担について定めるために締結された一定の契約について、Japan-APA の締結時点においてはその契約当事者ではなかった OEM (以下「Non-Consenting OEM」という。)のうち一定の OEM が、平成 30 年 1 月 2 日までに新たに契約当事者として追加されない場合には、KSS は Japan-APA を解除することができるものとされている (Japan-APA 4.4(d)(ii))。しかしながら、現時点までに、かかる解除権は発生しないことが確定した。

(3) DOJ 及び NHTSA からの同意取得

再生債務者グループは同意指令及び本司法取引に基づきそれぞれ NHTSA 及び DOJ から事業遂行について監督を受けているところ、Japan-APA 上、KSS への事業譲渡後にはかかる監督の範囲を限定する旨の契約を KSS が DOJ 及び NHTSA との間で締結することが、事業譲渡実行の前提条件とされている (Japan APA 9.1(o))。かかる解除権には一定の行使期限が設けられていたところ、KSS は、DOJ 及び NHTSA との間でそれぞれ一定の合意に至ったことを理由としてその期限までに解除権を行使しなかったため、現時点においてはかかる前提条件は放棄されたものとみなされている。

(4) 小括

以上より、Japan-APA に基づく事業譲渡が実行される十分な見込みが存在する。

7 本変更契約について

Japan-APA については、Non-Consenting OEM に対して IRA の契約当事者として加わ

る合意を得るための期間を延長するための変更契約（平成 29 年 12 月 3 日付 First Amendment to Asset Purchase Agreement（添付資料 2）及び同月 25 日付 Second Amendment to Asset Purchase Agreement（添付資料 3）と、米国倒産裁判所の意見を受けていわゆる Break-Up Fee（Japan-APA 4.6 条）の金額を低額にするための変更契約（平成 30 年 1 月 15 日付 Third Amendment to Asset Purchase Agreement（添付資料 4））がそれぞれ締結されているが、これらの変更契約の内容はいずれも合理的であり、これを締結する必要性及び相当性が認められる。

8 Japan-APA に基づく事業譲渡を前提とした再生計画が認可される見込みであること

(1) KSS への事業譲渡の実行により見込まれる再生計画案の概要

再生債務者は、KSS への事業譲渡の実行を前提として、調整後事業譲渡代金から後記 8(2)に記載の一定金額を控除した残額を再生債権者に分配した上で解散・清算する旨の清算型再生計画を策定することを想定している。

想定している再生計画案が清算価値保障原則を満たすことは次項で述べるとおりであるが、再生計画案には、さらに OEM 以外の債権者の利益に配慮した一定の規定を置く予定である。すなわち、再生債務者は、前記 5(3)及び(4)のとおり、再生債務者は調整後事業譲渡代金から DOJ 補償金負担額及び RTK 関連費用を支払うことが想定されているが、そもそも、これらの支払は、再生債務者のグローバルな事業を再建してその事業価値を最大化し、債権者に対する弁済原資を最大化するものであって、全ての債権者の利益を確保するためには必要不可欠な支払である。もっとも、衡平の見地から、OEM 以外の他の債権者の利益をより保護するために、再生計画においては、他の債権者が OEM と同様の割合まで再生計画による弁済を受けるまで、OEM は再生計画による弁済を受けられない旨の定め（キャッチアップルール）をおくことを予定しており、OEM もこれに合意している。

(2) 再生計画案が清算価値保障原則を満たすこと

再生債務者が KSS への事業譲渡を行わずに破産・清算する場合、添付資料 7 の財産評定書のとおり、配当原資の総額は約 101 億 2100 万円であり、再生債権の合計額は約 1 兆 755 億 6400 万円（ただし、かかる金額には、平成 29 年 8 月 25 日時点で PSAN インフレータに係るリコールの対象となっていない本リコール債権（以下「ガンマリコール債権」という。）に係る金額として約 2463 億 6500 万円が含まれている。）となるため、破産・清算配当率は約 0.94%となる。しかし、以下に述べるとおり、再生手続における一般債権者に対する弁済率はこれを上回っており、清算価値保障原則を満たすものと考えられる。破産手続や再生手続の実際の配当率（弁済率）は、①配当（弁済）の対象となる債権額と、②配当（弁済）原資額とによって決まることになる。

まず、①について検討すると、再生手続における弁済対象債権額は、現在、争われている債権が認められるかどうかなどによることになるが、基本的には、再生手続で認められる債権は、破産手続においても認められることとなると考えられる。ただし、ガンマリコール債権や DOJ の届出債権（DOJ 補償負担額を除く。）については、再生手続では、弁済の対象とならないことが想定されているが、破産手続ではそれらも配当の対象となるものと思われるから、破産手続では、再生手続と比較すると、配当（弁済）対象となる債権額は多いことになる。

次に、②について検討すると、破産における配当原資は、上記のように約 101 億 2100 万円である。これに対して、KSS への事業譲渡を行った場合の再生債権者への弁済原資は、(a) 調整後事業譲渡代金、(b) 再生債務者が事業譲渡前から有する余剰資金、及び (c) 資産超過の子会社である TK9 及び TKS から再生債務者が再生債権の支払い又は配当によって受領することが想定されている金額の合計額から、(d) 共益債権等の優先する金額を控除した残額となる。かかる金額は、現在の資金繰り見通しによ

れば 180 億円を超える金額（ただし、上記のキャッチアップルールを適用する結果、DOJ 補償金負担額（約 1 億 1320 万米ドル）及び RTK 関連費用（約 4460 万米ドル）の合計額（約 1 億 5780 万米ドル）については OEM の有する再生債権に対する弁済とみなされたと等しい結果になるので、OEM 以外の再生債権者は、OEM の上記合計額（約 1 億 5780 万米ドル）にかかる弁済率に至るまで優先的に弁済を受けることができる。）となることが見込まれている（1 ドルあたり 113 円として計算。ただし、上記の金額については現時点における予測に過ぎず、いずれの金額についても、今後の再生債務者グループ全体の資金繰り及び運営等によっては変動する可能性がある。）。したがって、再生計画による弁済の弁済率は、破産・清算配当率より高いものと想定され、KSS への事業譲渡を行った場合の再生計画における配当率が清算価値保障原則を満たすことは明らかである。

なお、再生債務者は、前記 5(3)及び(4)のとおり、キャッチアップルールを適用することが予定されているため、DOJ 補償金負担額及び RTK 関連費用の支払いが OEM 以外の再生債権者の配当率に影響を及ぼすことはないと考えられる。

(3) 再生計画案がその他の認可要件を満たすこと

前記(2)のほか、再生計画案が「法律の規定に違反」（民事再生法 147 条 2 項 1 号）する、「遂行される見込みがない」（同 2 号）、又は「再生債権者一般の利益に反する」（同 4 号）等の不認可要件に該当する事業は存在しない。

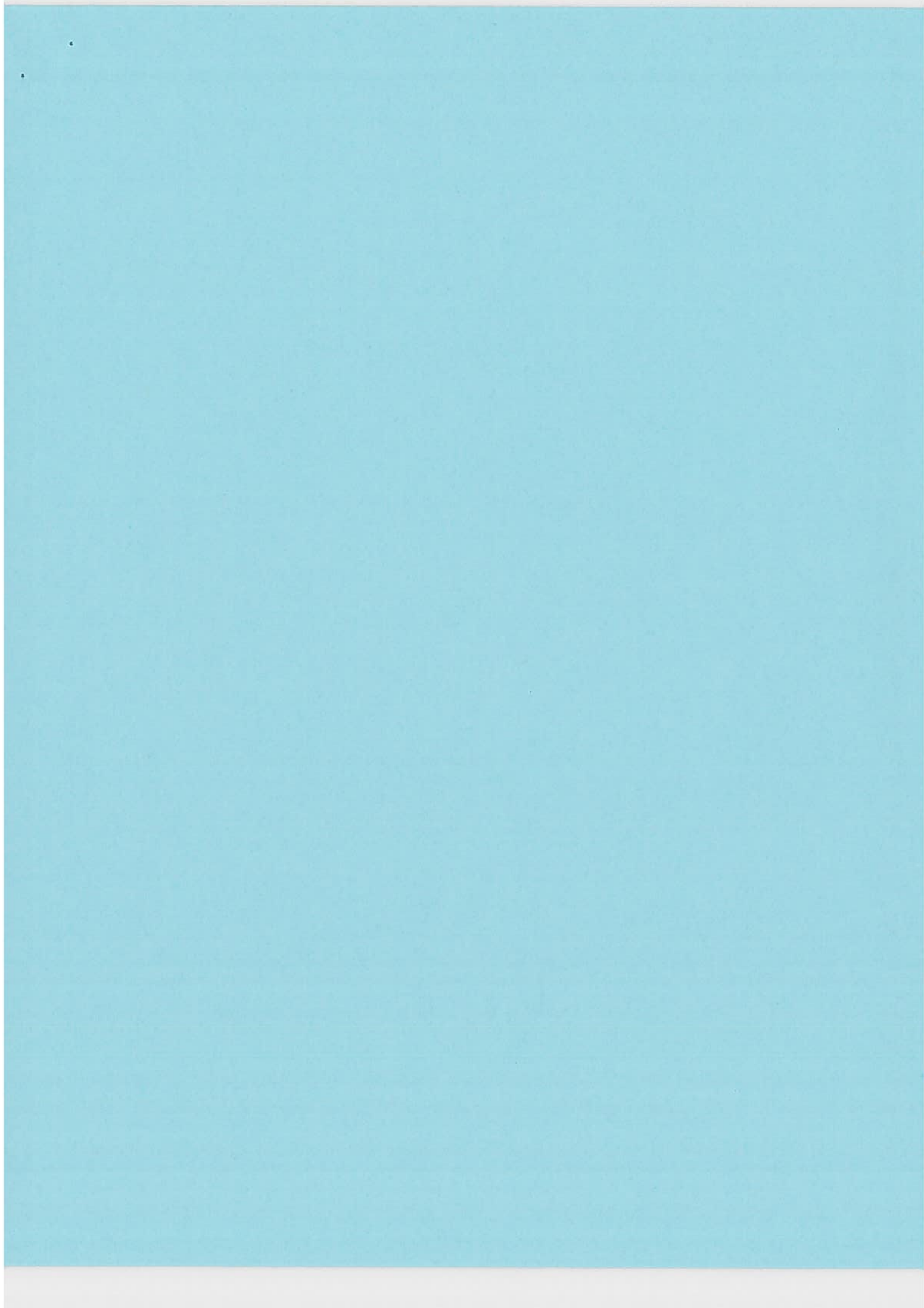
9 結語

以上より、Japan-APA に基づく事業譲渡を行う必要性・相当性が存在し、実際にかかる事業譲渡が実行される見込みであり、さらに事業譲渡を前提とした再生計画が認可される見込みである。したがって、本申立てに及ぶ次第である。

添付資料

- 1 Japan Asset Purchase Agreement
- 2 First Amendment to Asset Purchase Agreement
- 3 Second Amendment to Asset Purchase Agreement
- 4 Third Amendment to Asset Purchase Agreement
- 5 KSS への譲渡対象法人及び譲渡方法
- 6 Japan-APA の概要
- 7 財産評定書

以上



I hereby certify that this Petition was approved on February 26, 2018.
February 26, 2018 Toru Kagaya, Registrar of Tokyo District Court, 20th Civil Division (seal)

2017 (sa) No.20: Case of Petition for Commencement of Rehabilitation Proceedings

Petition for Approval for Business Transfer
(Article 42 of the Civil Rehabilitation Act)

To: Tokyo District Court, 20th Civil Division

January 22, 2018

Rehabilitation Debtor: Takata Corporation
Attorney for the Rehabilitation Debtor:
Attorney-at-Law, Nobuaki Kobayashi

I. Approval Requested

The rehabilitation debtor, together with Takata Kyusyu Corporation ("TK9") and Takata Service Corporation ("TKS") (each respectively a subsidiary of the said rehabilitation debtor), seeks approval to transfer part of the business of the rehabilitation debtor to Joyson KSS Auto Safety S.A. and its subsidiaries and affiliates (individually or collectively, "KSS"), based on (1) Attachment 1, the "Japan Asset Purchase Agreement" (including the Amendment Agreements and the further amendments thereafter, the "**Japan-APA**"); (2) Attachment 2, the "First Amendment to Asset Purchase Agreement;" (3) Attachment 3, the "Second Amendment to Asset Purchase Agreement;" and (4) Attachment 4, the "Third Amendment to Asset Purchase Agreement" (hereinafter, (2) through (4) shall be collectively referred to as the "**Amendment Agreements**").

II. Reasons

1. Introduction

The rehabilitation debtor and its subsidiaries and affiliates in different countries throughout the world (collectively, the "**Rehabilitation Debtor Group**") plans to transfer to KSS substantially all of the business globally operated by the Rehabilitation Debtor Group, except for the assets and business pertaining to the inflator using phase-stabilized ammonium nitrate (the "**PSAN Inflator**"). Such global business transfer will be conducted by means of four (4) business transfer agreements, i.e., (1) the Japan-APA, which is the agreement of the business transfer in Japan and other Asian countries, etc.; (2) the agreement of the business transfer in the United States, Mexico, South America, etc. (the "**US-APA**"); (3) the agreement of business transfer in Europe, etc. (the "**EMEA-APA**"); and (4) the agreement of the business transfer of Takata (Shanghai) Automotive Component Co., Ltd. ("**TSAC**"), a Chinese subsidiary of the rehabilitation debtor (the "**TSAC-APA**," which is scheduled to be executed hereafter). Further, (1) Japan-APA was executed on November 16, 2017 and consented by the Supervisor on January 15, 2018. Therefore, a petition is hereby made to seek approval to be granted to transfer the business based on the Japan-APA outside of the rehabilitation plan (Article 42 (1) of the Civil Rehabilitation Act).

2. Background of the execution of the Japan-APA

(1) The Rehabilitation Debtor Group manufactures, among other products, airbag modules (the "**Airbag(s)**") that include the PSAN Inflators and sells them to original equipment manufacturers of automobiles (the "**OEMs**"). With respect to the Airbag, defects pertaining to the PSAN Inflator had been identified, including the occurrence of fatal accidents, etc., caused by metal shards shooting out of rupture of PSAN Inflators which are the components to inflate the airbags by generating gas. Consequently, on and after November 2008, the OEMs initiated recalls

including voluntary remedy programs with regards to the vehicles that installed the Airbag, eventually expanding the coverage thereof. Pursuant to such circumstance, TK HOLDINGS INC. ("TKH"), a U.S. subsidiary of the rehabilitation debtor, agreed to the Consent Order between the United States Department of Transportation, National Highway Traffic Safety Administration (the "NHTSA") in May and November 2015, in substance to (1) conduct additional recalls with respect to the Airbags; and to (2) impose against TKH the duty to pay a civil penalty in the amount of 70 million U.S. dollars in installments, etc. Shortly thereafter, the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism of Japan also instructed the rehabilitation debtor to expand the recall regarding the PSAN Inflators in Japan. The OEMs have claimed, or it was assumed that they would claim, the right to indemnification and other rights (the "Recall Claims") against the Rehabilitation Debtor Group pertaining to the expenses, etc., incurred by the OEMs in relation to the series of abovementioned recalls (the "Recalls"), and the amount thereof was expected to increase. Further, in relation to the Airbag defects, numerous judicial actions have been filed, and it was expected that similar judicial actions would be filed in the future, against the rehabilitation debtor.

(2) In light of such circumstances, in February 2016, in order to develop a restructuring plan for the Rehabilitation Debtor Group, the rehabilitation debtor established an external steering committee (the "SC") consisting of five (5) experts in restructuring and entrusted the SC to develop a restructuring plan for the Rehabilitation Debtor Group. Considering that the OEMs are the largest creditors of the rehabilitation debtor and the most significant business partners for the Rehabilitation Debtor Group to continue its business, the rehabilitation debtor desired a sponsored-type restructuring as opposed to an unaided-type restructuring in order to maintain quality control over the products of the Rehabilitation Debtor Group, the SC decided to select a

sponsor, and appointed Lazard Frères & Co. LLC and Lazard Frères K.K. (collectively, "**Lazard**") as a financial advisor to take initiative in the selection of a sponsor for the Rehabilitation Debtor Group in May 2016 after consultation with the rehabilitation debtor. Taking into account the fact that the businesses of the Rehabilitation Debtor Group are closely associated with each other on a global scale and the OEMs being the significant business partners had requested a global supply system, SC and Lazard estimated that, in order to maximize the sales value of the Rehabilitation Debtor Group as a whole, it was preferable to sell the business altogether as a whole (except for the business and assets related to production of PSAN Inflators), and, after consultation with the rehabilitation debtor, SC and Lazard decided to select a single sponsor on a global scale.

(3) In June 2016, after hearing the initial intention from major OEMs holding Recall Claims against the Rehabilitation Debtor Group, Lazard broadly sought for sponsor candidates by contacting forty (40) companies on a global basis. Subsequently, under Lazard's initiative, a large number of sponsor candidates participated and the procedure for selecting the sponsor for the Rehabilitation Debtor Group was conducted, including (1) due diligence of the Rehabilitation Debtor Group; (2) on-site visits to the plant facilities, etc., of the Rehabilitation Debtor Group in various countries around the world; (3) management presentations by the Rehabilitation Debtor Group; and (4) holding multiple meetings with participation of the sponsor candidates, OEMs and management from the Rehabilitation Debtor Group.

(4) On January 13, 2017, the rehabilitation debtor entered into a plea agreement with the United States Department of Justice (the "**DOJ**") (the "**Plea Agreement**"). Based on the Plea Agreement, the rehabilitation debtor became obligated to pay 850 million US dollars (the "**DOJ Restitution**

Award") to the restitution fund for the benefit of the OEMs who were the victims of the conducts and acts stated in the Plea Agreement. As stated in (2) above, since prior to the execution of the Plea Agreement, it was contemplated that the Rehabilitation Debtor Group is restructured with sponsor's support. Therefore, the Plea Agreement stipulates that the rehabilitation debtor shall close the sponsorship agreement by February 27, 2018 and pay the DOJ Restitution Award within five (5) days from the said closing. Under the Plea Agreement, if the rehabilitation debtor is not able to fulfill the duty of making the said payment, which payment may be supported by the rehabilitation debtor's subsidiaries and affiliates, before the said due date, the DOJ may cancel the Plea Agreement, and in this event, the DOJ may bring a legal action against the Rehabilitation Debtor Group, and a significant amount of penalty exceeding 850 million US dollars (which was decided upon through reconciliation under the Plea Agreement) may be imposed on the Rehabilitation Debtor Group. Accordingly, the Rehabilitation Debtor Group's payment of the DOJ Restitution Award is indispensable for restructuring the global business thereof as a whole. Concurrently, since the Rehabilitation Debtor Group has insufficient financial resources to pay the DOJ Restitution Award by itself, it became necessary for the Rehabilitation Debtor Group to close the sponsorship agreement with a sponsor who would be able to support the global business as a whole, in order to receive funds from the sponsor in an amount exceeding the DOJ Restitution Award.

(5) On February 3, 2017, SC recommended KSS to the rehabilitation debtor as a sponsor candidate for the Rehabilitation Debtor Group, considering that: (1) KSS proposed the highest and best offer concerning the purchase price, considerably exceeding the price offered by other sponsor candidates; (2) it appeared that there was more certainty for KSS to perform the sponsorship agreement since KSS has lower antitrust risk than other contending sponsor

candidates; (3) KSS is considerably ahead with the due diligence process; and (4) the OEMs that constitute the Customer Group, who are major customers of the Rehabilitation Debtor Group and customers of the sponsor, expressed their support for KSS, among other facts. Subsequently, the Rehabilitation Debtor Group, KSS and the OEMs intensively negotiated focusing on the terms and conditions of the agreement for KSS to assume the business of the Rehabilitation Debtor Group, and the rehabilitation debtor and KSS made the first step by reaching a basic, non-binding agreement on June 26, 2017 with regard to the transfer of the assets and business of the Rehabilitation Debtor Group, prior to the filing of the petition for commencement of rehabilitation proceedings by the rehabilitation debtor.

(6) After the rehabilitation debtor filed the petition for commencement of rehabilitation proceedings on the same day, the Rehabilitation Debtor Group advanced the consultations and negotiations with KSS aiming to execute final agreements and, after obtaining consent from the Supervisor, the Rehabilitation Debtor Group and KSS entered into the US-APA and EMEA-APA on November 16, 2017. Moreover, the Japan-APA as set out in Attachment 1 was also executed on the same day subject to the consent by the Supervisor, and such consent was subsequently obtained from the Supervisor on January 15, 2018.

3. Necessity to execute the Japan-APA

(1) It is necessary to transfer the business under the Japan-APA for rehabilitation of the rehabilitation debtor's business (Article 42 of the Civil Rehabilitation Act)

As stated in 2 (1) above, it is necessary for the Rehabilitation Debtor Group to seek drastic business restructuring since the Rehabilitation Debtor Group faces a financial crisis due to being subject to the considerable amount of claims pertaining to the Recall Claims and the filings of

judicial actions in relation to the Airbag defects. The OEMs who are the largest creditors of the Rehabilitation Debtor Group and the most significant business partners of the Rehabilitation Debtor Group for the continuation of business thereof support a sponsored-type restructuring which enables the Rehabilitation Debtor Group to be sold as a global business, from the point of view of the quality control of the products and the maintenance of the global supply system of the Rehabilitation Debtor Group. Furthermore, since the rehabilitation debtor is obligated to make payment of the DOJ Restitution Award in the amount of 850 million US dollars under the Plea Agreement as a condition to closing the sale to KSS, as stated in 2 (4) above, the Rehabilitation Debtor Group's payment of the DOJ Restitution Award is indispensable for restructuring the global business thereof. For this purpose, it is also necessary to close the business transfer agreement with the sponsor in order to receive the purchase price exceeding the amount of the DOJ Restitution Award.

Hence, it is necessary for the Rehabilitation Debtor Group to transfer its business to KSS under the Japan-APA for rehabilitating the rehabilitation debtor's business (Article 42 of the Civil Rehabilitation Act).

(2) It is required to transfer the business outside the plan

As stated in 2 (4) above, under the Plea Agreement, the Rehabilitation Debtor Group is obligated to close a sponsorship agreement with a sponsor before February 27, 2018 and to make payment of the DOJ Restitution Award within five (5) days thereafter. Meanwhile, since the deadline for the rehabilitation debtor to submit the proposed rehabilitation plan is February 28, 2018, considering the deadline to perform the duty to make payment of the said DOJ Restitution Award, the Rehabilitation Debtor Group cannot wait for the business transfer under the rehabilitation plan, and it is required to transfer the business earlier by means of business transfer outside the plan

(Article 42 of the Civil Rehabilitation Act).

4. Reasonableness of entire global business transfer

(1) KSS was selected as a sponsor appropriately through fair process

As stated in 2 above, under the SC, the procedure for selecting the sponsor for the Rehabilitation Debtor Group was led by Lazard, a financial advisor with experience and expertise in selection of a sponsor in a business restructuring phase. Moreover, SC and Lazard contacted candidates who may be potential sponsor candidates for the rehabilitation debtor on a global and broad basis. SC and Lazard also requested the OEMs, who are the largest creditors of the Rehabilitation Debtor Group and are the most significant business partners of the Rehabilitation Debtor Group for continuing its business, to recommend other sponsor candidates if any. Accordingly, appropriate and fair procedure has been followed in the process of selecting the sponsor.

Further, KSS, which was ultimately selected as the sponsor had offered the highest price in the amount of 1,588 million US dollars as the purchase price considerably exceeding the prices offered by other sponsor candidates, and the amount of such price is sufficient to fulfill the obligation to make the payment in the amount of 850 million US dollars under the Plea Agreement. Moreover, since KSS has lower antitrust risk under than other contending sponsor candidates, KSS may perform the sponsor agreement with more certainty while maintaining the global supply system, and time necessary to receive approval of the transaction from the antitrust authority is expected to be shorter. In addition, the Rehabilitation Debtor Group, following the discussions with the OEMs who are the largest creditors and also are the major customers of the Rehabilitation Debtor Group, understands that the OEMs support the transaction and business transfer to KSS. Further, KSS has sufficient competence to carry out the business after

acquiring the Rehabilitation Debtor Group's business since KSS is a company which manufactures and supplies on a global basis automotive safety components including airbags.

(2) Entire structure of global business transfer

The Rehabilitation Debtor Group intends to transfer to KSS substantially all of its global business, except for business and assets related to the PSAN Inflators, and KSS intends to acquire such global business of the Rehabilitation Debtor Group altogether as a whole. Such global business transfer is planned to be executed by means of four (4) business transfer agreements, i.e., (1) the Japan-APA, which is the agreement of business transfer in Japan and other Asian countries, etc.; (2) the US-APA, which is the agreement of business transfer in the United States, Mexico, South America, etc.; (3) the EMEA-APA, which is the agreement of business transfer in Europe, etc.; and (4) the TSAC-APA, which is the agreement of business transfer of TSAC, a Chinese subsidiary of the rehabilitation debtor (as stated in 1 above, the TSAC-APA is scheduled to be executed hereafter). Given the global nature of the transaction with KSS, under each of these business transfer agreements, satisfaction or waiver of the conditions to close other business transfer agreements is a condition to closing of the respective business transfer, and as it is also provided that if any business transfer agreement is terminated, other business transfer agreements may also be terminated, thus, each of these business transfer agreements substantially constitutes an integrated agreement as a whole.

According to the scheme of these business transfers, (i) the sellers under the Japan-APA will transfer the business outside of the rehabilitation plan (Article 42 (1) of the Civil Rehabilitation Act) in the rehabilitation proceedings; (ii) the sellers in the United States, etc. under the US-APA will transfer the business by way of asset sale based on the Chapter 11 Plan under Chapter 11, which is an in-court insolvency proceedings in the United States (equivalent to the rehabilitation plan

under the Civil Rehabilitation Act); and, as for the sellers under (iii) the EMEA-APA and (iv) the TSAC-APA, it is contemplated that they will transfer the business within the framework of out-of-court restructuring.

As stated in 2(1) above, based on the fact that the Rehabilitation Debtor Group is subject to the Recalls and that judicial actions have been filed in relation to the defects of the PSAN Inflators, in order to insulate KSS from any risks related to the PSAN Inflators, KSS requested that, among the companies belonging to the Rehabilitation Debtor Group: (1) as for companies engaging in manufacture, distribution, sales, etc. of the PSAN Inflators, KSS will only assume the business not related to the PSAN Inflators by way of a business transfer in which the business, assets and receivables/payables (including potential obligations) relating to the PSAN Inflater will remain with the Rehabilitation Debtor Group (in other words, these will not be assumed by KSS); and (ii) as for companies not involved in the manufacture, distribution, sales, etc. of the PSAN Inflators, KSS will assume such companies themselves by way of share transfer. In addition, KSS requested that (iii) certain companies among the Rehabilitation Debtor Group whose business is almost valueless to KSS shall be excluded from the scope of assumption. In this global business transfer, the determination on the companies subject to the transfer to KSS and the method of transfer has been made based on KSS's requests as stated in (i) through (iii) above. Please refer to Attachment 5 as to the treatment of each company belonging to the Rehabilitation Debtor Group.

(3) Reasonableness of the global allocation of Purchase Price

As stated in 2(5) above, the total amount which will be the basis of the Purchase Price that the Rehabilitation Debtor Group will receive from KSS globally (i.e., the amount proposed by KSS in the final proposal of sponsor selection process) is 1,588 million US dollars (the "Total Purchase

Price"). As the global business transfer from the Rehabilitation Debtor Group to KSS will be conducted under the four (4) business transfer agreements (i.e., the Japan-APA, the US-APA, the EMEA-APA, and the TSAC-APA) as stated in 4(2) above, the Total Purchase Price needs to be allocated among each of these business transfer agreements.

The amount of sale proceeds to be allocated to each business transfer agreement was calculated with the support of Lazard, the financial advisor, and based on the agreement with Jefferies LLC, KSS's financial advisor. In calculating the allocation amount, firstly, (1) as for each of the European, Mexican and Chinese companies belonging to the Rehabilitation Debtor Group which the business (not share) will be transferred under the framework of out-of-court restructuring, the fair market value evaluated by a third party specialist agency will be allocated (it was KSS's preference to adopt the fair market value evaluated by a third party specialist agency); and (2) as for other companies that will transfer the business (including transfers of shares of subsidiary companies) under the legal restructuring proceedings, (i) firstly allocate the amount remaining after deducting the amount in (1) above from the Total Purchase Price based on the proportion of each company's adjusted net asset value (i.e. the net asset value after adjustment of intercompany receivables and deduction of goodwill) within the entire group, and then (ii) if the amount so allocated to a company based on the proportion of the company's adjusted net asset value is below its liquidation value, the shortfall amount shall be re-allocated to such company on a pro-rata basis until the allocation amount reaches its liquidation value, from other companies which amount allocated based on the proportion of the company's adjusted net asset value exceed their liquidation value.

As stated above, allocation of the Total Purchase Price to companies transferred under the legal restructuring proceedings will be made based on the net asset value thereof. That is because, under the circumstances where no post-transfer business plan of the Rehabilitation Debtor Group

has been disclosed by KSS, and it is therefore impossible to make the allocation based on future cash flow calculated based on the business plan, it is reasonable to use the net asset value as the basis for calculating the allocation amount given that (i) the net asset value is an objective value stated in the most recent audited financial statements and (ii) the figures can be obtained for each company and accordingly it is easy to make the allocation of the Purchase Price. With regards to the net asset value being used as the basis for the distribution of the Total Purchase Price, from the standpoint of ensuring an accurate understanding of the value of each company, the figures stated in the audited financial statement are not used as-is; rather, the figures for the net asset value after adjustment of the consolidation difference or deduction of goodwill is performed are used as the basis.

Such method of global allocation of the Total Purchase Price is reasonable since such allocation is made in an objective manner in accordance with the value of the companies subject to the business transfer under each of the business transfer agreements.

(4) Reasonableness of global allocation of DOJ Restitution Award

As stated in 2(4) above, the rehabilitation debtor, as a group, is contemplating to make the payment of DOJ Restitution Award in the amount of 850 million US dollars to the restitution fund covering the OEMs under the Plea Agreement executed between the rehabilitation debtor and the DOJ. The global allocation as to which companies within the Rehabilitation Debtor Group shall contribute to the DOJ Restitution Award payment will be carried out in accordance with the following standards.

- (i) Firstly, the companies which are involved in the manufacture and/or sales of airbags equipped with the PSAN Inflators (the "**Companies Bearing DOJ Restitution Award**") will be specified and shall bear part of the DOJ Restitution Award. Since the nature of the DOJ

Restitution Award is to compensate OEMs who purchased Airbags containing PSAN Inflators from the Rehabilitation Debtor Group it is reasonable to cause the Companies Bearing DOJ Restitution Award to contribute to the payment of the DOJ Restitution Award (the specific method of allocation among the Companies Bearing DOJ Restitution Award shall be as set forth in (ii) and (iii) below).

- (ii) Secondly, among the Companies Bearing DOJ Restitution Award, each of the companies other than the rehabilitation debtor, TK Holdings Inc. ("TKH"), Takata Europe ("TKEUR"), Takata AG ("TKAG") and Takata Sachsen GmbH ("TKSAC"), which are the ultimate parents under each of the business transfer agreements among the Rehabilitation Debtor Group, will contribute to the DOJ Restitution Award the payment of the total amount allocated from the Total Purchase Price after deduction of costs accruing in association with the contemplated transaction such as tax burden and liquidation costs.
- (iii) Finally, the remaining amount after deducting the DOJ Restitution Award paid by each of the companies specified above from 850 million US dollars will be borne by, among the Companies Bearing DOJ Restitution Award, the rehabilitation debtor, TKH, TKAG and TKSAC, which are the ultimate parent under each of the business transfer agreements among the Rehabilitation Debtor Group, on a pro rata basis according to the percentage of shipments of the PSAN Inflators. Such allocation standard regarding the DOJ Restitution Award is reasonable because the amount to be borne by the ultimate parents which have external creditors will be reduced as much as possible and, among the ultimate parents, such amount will be paid according to shipments of the PSAN Inflators.

(5) Reasonableness of global allocation of the RTK Related Costs

The Rehabilitation Debtor Group, as a prerequisite to its restructuring, must ensure continued

supply of certain PSAN Inflators after the business transfer to KSS in order to continue to support the Recalls as requested by some of the customers to the Rehabilitation Debtor Group. On the other hand, as stated in 4(2) above, KSS will become the sponsor of the Rehabilitation Debtor Group on condition that it will not assume any PSAN-related assets in order to insulate the risks and liabilities relating to the PSAN Inflators. Therefore, the rehabilitation debtor needs to continue PSAN related businesses at each company which will remain within the Rehabilitation Debtor Group ("**RTK**").

In order for RTK to continue its business, various cost would be necessary such as: (1) cost necessary for shipping, warehousing and disposal of PSAN Inflators; (2) cost related to the monitors for the NHTSA and the DOJ to monitor the PSAN related businesses; (3) fees to be paid to the special master who will allocate the DOJ Restitution Award; (4) cost for facilities to manufacture PSAN Inflators; and (5) labor cost and indirect cost necessary to secure the safety of desiccated inflators (collectively, the "**RTK Related Costs**"). It is contemplated that the RTK Related Costs will be handled as follows:

Firstly, the cost necessary for shipping, warehousing and disposal of PSAN Inflators as set forth in (1) above is planned to be borne by each region among the Rehabilitation Debtor Group. Further, it is planned that the rehabilitation debtor will bear only the cost necessary for shipping, warehousing and disposal of PSAN Inflators received from OEMs prior to the closing of the business transfer to KSS, and after the closing, the OEMs will bear such cost (by conducting either by themselves or by outsourcing to RTK). Next, each of the cost of (2), (3), (4) and (5) will be borne by the rehabilitation debtor, TKAM, TKH, TKEUR, TKSAC and TKAG which are the ultimate parents under each of the business transfer agreements, in accordance with the percentage of their respective shipments of the PSAN Inflators which have already been or are potentially subject to recalls. In addition, should there be any shortage in the cost necessary for

RTK, it is contemplated that, pursuant to the Backstop Agreement dated November 16, 2017 (as amended) which was separately entered into by and between KSS, the OEMs and the Rehabilitation Debtor Group, KSS will bear part of the RTK Related Costs (which is defined as the PSAN Legacy Cost in the said Backstop Agreement) up to a certain amount.

As for the treatment under the rehabilitation plan of the RTK Related Costs to be borne and paid by the rehabilitation debtor, see the catch-up rule in 5(4) below.

Such allocation standards are reasonable because, with regard to the cost for (1), each region will bear the cost for shipping, warehousing and disposal of PSAN Inflators which are necessary in the respective regions, and with regard to each of the cost for (2), (3), (4) and (5), the RTK Related Costs will be substantially allocated among the Rehabilitation Debtor Group,; and, within the Rehabilitation Debtor Group, the RTK Related Costs which are the costs for the PSAN inflator related businesses will be allocated in accordance with an objective standard, namely, shipments of the PSAN Inflators.

(6) Summary

For the reasons stated above, it can be said that the entire framework of the global business transfer to KSS is reasonable.

5 Appropriateness of Business Transfer pursuant to Japan-APA

(1) Outline of Japan-APA

As described in 4(2) mentioned above, Japan-APA stipulates that, as a part of the global business transfer from the Rehabilitation Debtor Group to KSS, the rehabilitation debtor, TK9 and TKS, which are Japanese entity, as sellers, shall transfer the business in Japan and other Asian countries operated by the Rehabilitation Debtor Group. Please refer to the Appendix 6 with

regard to the outline of each clauses of Japan-APA.

(2) Appropriateness of the Amount of Consideration for the Business Transfer pursuant to the Japan-APA

The base purchase price which will be paid to the rehabilitation debtor out of the consideration for the business transfer under the Japan-APA, shall be approximately 319.5 million US dollars, the amount of which is calculated by using the allocation method described in 4(3) above (the "**Base Business Transfer Price**". "Individual Seller Base Price for TKJP" which is defined in Clause 3.1 of the Japan-APA correspond to this but, as stipulated in Section 3.2 of the Japan APA, the amount of the Base Business Transfer Price is different from the amount stipulated in Section 3.1 of the Japan-APA due to the adjustment of the price for the business transfer in light of the treatment of inter-company indebtedness and the valuation of fair trade value of certain legal entities in the Rehabilitation Debtor Group by professional organizations.) The Base Business Transfer Price is calculated by reasonably allocating the entire consideration of the Business Transfer, the amount of which was the highest amount among the proposals by sponsor candidates in a fair procedure as described in 4(1) above. Thus, the method of calculation is appropriate.

The amount of consideration which the rehabilitation debtor will actually receive (the "**Business Transfer Price after Adjustment**") shall be an amount which is calculated by deducting certain adjustment amounts based on the following adjustment items which are stipulated in Section 3.1 (ii) to (xii) of the Japan-APA (As for the definitions of Regional Share Percentages, Cash Allocation Share and Purchase Price Share and other details, please refer to the Appendix 6.)

【Adjustment Items of the Base Business Transfer Price】

- (i) Sum of the outstanding indebtedness under loans and other financial arrangements owed by subsidiaries of the rehabilitation debtor, the shares in which shall be transferred under the Japan-APA. As for the definitions of Regional Share repaid by the funds KSS will provide at the closing of the Japan APA (Section 3.4 of the Japan-APA).
- (ii) Sum of the money the non-debtor subsidiaries of the rehabilitation debtor, the shares in which shall be transferred under the Japan-APA, shall pay in accordance with the OEM Settlement Agreement which such subsidiaries and OEMs have executed. KSS shall make such payment on behalf of the subsidiaries of the rehabilitation debtor at the closing of the Japan-APA (Section 3.3(d) of the Japan-APA).
- (iii) Sum of the amount of the repaid receivables (which shall be limited to those which would not have been repaid by the closing if Japan -APA were not to be executed) received by the entities, of which business or shares shall be the subject of transfer under Japan-APA, by the date of the closing pursuant to the terms of the Accommodation Agreement executed on June 26, 2017 by such entities and OEMs (the "Japan-APA") (provided however, the amount the repaid receivables which TK9 and TKS received shall be excluded).
- (iv) The amounts which the OEMs have paid to the entities of which business or shares shall be the subject of transfer under the Japan-APA, if such OEMs exercise the Equipment Option pursuant to the terms of the Japan-AA (provided however, the amounts in relation to the Equipment Option exercised to TK9 and TKS shall be excluded).
- (v) Taxes imposed on KSS on transferring the business of the rehabilitation debtor, provided

however, which excludes Japanese consumption tax and Chinese value added tax and other taxes parallel (the "VAT").

- (vi) The amount of unrecoverable VAT imposed on KSS on transferring the business of the rehabilitation debtor. KSS shall pay such unrecoverable VAT by utilizing such deducted amount.

- (vii) The amount of the certain portion of the unrecoverable VAT allocated to the rehabilitation debtor based on the Purchase Price share, out of the amount allocated to the Sellers under Japan-APA based on the Reginal Share Percentage from the aggregated amount of refundable VAT imposed on KSS on the global business transfer with the Rehabilitation Debtor Group. KSS shall pay the recoverable VAT, which is imposed on the business transfer conducted by the rehabilitation debtor, by utilizing such deducted fund and in case where such VAT is actually recovered, such recovered VAT shall be deposited in the Regulatory Escrow which will be set up in accordance with the Regulatory Escrow Agreement executed by the Rehabilitation Debtor Group and KSS. In case where the Rehabilitation Debtor Group become obliged to pay fines by the governmental authority of each country on the ground of violation of competitive law, KSS may pay a portion of such fine which exceeds 10 million US dollars by the fund deposited in Regulatory Escrow. KSS shall return the remainder of such fund deposited in Regulatory Escrow to the Rehabilitation Debtor Group within 30 months after the Closing of each business transfer agreement at the latest (the allocation of such refund the Rehabilitation Debtor Group will receive shall be based on the Regional Share Percentage.).

- (viii) In case where the sum of the cash or cash equivalent which shall be transferred to KSS falls below 435 million US dollars globally, a portion of such deficiency which is allocated to the Sellers of the Japan-APA in accordance with Regional Share Percentages and further is allocated to the rehabilitation debtor in accordance with Purchase Price Share. In case where the sum of the cash or cash equivalent which shall be transferred to KSS exceeds 435 million US dollars globally, up to a ceiling of the global total sum of 50 million US dollars, the amount of money exceeding 435 million US dollars is allocated in accordance with the same manner of calculation shall be added to the business transfer price paid to the rehabilitation debtor.
- (ix) The amount of the transaction costs KSS incurred for the purpose of global business transfer (subject to the ceiling of 50 million US dollars) which is allocated to the Sellers of the Japan-APA in accordance with Regional Share Percentages and further is allocated to the rehabilitation debtor in accordance with Purchase Price Share out of the transaction costs. In the matter of large scaled acquisition such as this one, especially in the US practice, it is commonly seen that the seller reimburses the transaction costs incurred the buyer and it is not unreasonable that the Rehabilitation Debtor Group reimburses a part of the transactions costs incurred by KSS.
- (x) The amount of any receivables of any entities, which are subject to the business transfer or the share transfer under Japan-APA, set off by any OEMs at Closing in respect of any DOJ Restitution Payment (provided however, such amount excludes the amount to be allocated to TK9 and TKS).

All adjustment items above are reasonable because such adjustment items are intended to adjust the purchase price in case where KSS pays any fund which should have paid by the Rehabilitation Debtor Group, in case the enterprise value, which the parties premised on, changes, or in other similar cases, in accordance with some objective calculation methods. In addition, as mentioned in 8(2) below, in case where the rehabilitation debtor receives Business Transfer Price after Adjustment by consummating the business transfer with KSS, the rehabilitation debtor can distribute at a rate exceeding that in case that the rehabilitation debtor liquidated. Thus, the provisions regarding business transfer under the Japan-APA is reasonable as a whole.

(3) Appropriateness of bearing the DOJ compensation by the rehabilitation debtor

As described in 2(4) above, the Rehabilitation Debtor Group will be paying 850 million US dollars for the DOJ Restitution Fund for OEMs in accordance with the Plea Agreement and the rehabilitation debtor shall pay approximately 113.2 million US dollars, which is allocated in accordance with the rules described in 4(4) above, (the "**Allocated DOJ Payment**") out of the consideration for the business transfer the rehabilitation debtor will receive (Section 3.3 (a) of the Japan-APA).

Such payment of Allocated DOJ Payment by the rehabilitation debtor is appropriate because the amount of such payment is determined by allocating DOJ Restitution Payment, the payment of which is essential for continuing the global business of the Rehabilitation Debtor Group, within the Rehabilitation Debtor Group in accordance with a reasonable rule.

In addition, it is expected that OEMs, in addition to the distributions they would be receiving as general unsecured creditors, will be compensated from the DOJ Restitution Fund in accordance with the Plea Agreement. Therefore, under the rehabilitation plan, in order to ensure the fair and

equal treatment of creditors, the rehabilitation debtor's allocable portion of the DOJ Restitution Payment will be deemed a recovery on account of the OEMs' rehabilitation claims against the rehabilitation debtor. To this end, the rehabilitation plan will provide that the OEMs shall not be entitled to receive any additional recoveries on account of their rehabilitation claims against the rehabilitation debtor until other creditors receive distributions on account of their allowed claims in an amount that results in the same recovery rate as that for OEMs (catch-up rule), and the OEMs have agreed to support it. Such treatment is intended to protect the interests of the creditors other than OEMs from the perspective of equity.

(4) Appropriateness of bearing the RTK related cost by the rehabilitation debtor

As described in 4(5) above, the Rehabilitation Debtor Group needs to contribute the RTK Related Cost and the rehabilitation debtor shall pay approximately 44.6 million US dollars (expected to increase slightly in the future), which are allocated from such cost in accordance with some rules out of Business Transfer Price after Adjustment. Such payment of the RTK Related Cost by the rehabilitation debtor is appropriate because the amount of such payment is determined by allocating the cost which is essential for continuing PSAN business by the Rehabilitation Debtor Group which was the essential basis of the business transfer to KSS.

In addition, as part of their support of the business transfer to KSS and conditioned upon the approval of this Petition for Approval for Business Transfer, the OEMs have agreed that the rehabilitation debtor's payment of its allocable portion of the RTK Related Cost will be deemed a partial recovery on account of the OEMs' rehabilitation claims against the rehabilitation debtor, and as a result, the rehabilitation plan will provide that OEMs shall not be entitled to receive additional recoveries on account of their rehabilitation claims until other creditors receive distributions on account of their allowed claims that result in the same recovery rate as that for

OEMs (catch-up rule). Such treatment is intended to protect the interests of the creditors other than OEMs from the perspective of equity.

(5) Appropriateness of the Treatment of Employees

The Japan-APA stipulates that, in principle, KSS shall retain all employees who work for the rehabilitation debtor at Closing (excluding temporary employees such as dispatched employees, contact employees, and advisors) on the same or better conditions (including employee benefits) than that prior to the business transfer. Provided, however, the head office function of the Rehabilitation Debtor Group is forced to be downscaled due to the plan that the global head office function of the Rehabilitation Debtor Group will be transferred to overseas. Considering such situation, KSS is exceptionally entitled not to offer the employment of those employees working at head office function in Tokyo upon good consultation with the Sellers (Section 8.1 of the Japan-APA). The range of the employees KSS will not offer will be determined in future consultation between KSS and the rehabilitation debtor. As above, the employees of the rehabilitation debtor are properly protected because KSS will take over the employment of the employees of the rehabilitation debtor and the employment conditions of such employees are the same as or better than that prior to the business transfer.

(6) General Overview

Therefore, the content of the Japan-APA is appropriate.

6. The business transfer pursuant to the Japan-APA is likely to be consummated as planned.

(1) Overview

Upon the execution of the Japan-APA, the business transfer pursuant to Japan-APA will be implemented when (i) the Japan-APA is not terminated based on the parties' termination rights stipulated in the Japan-APA and (ii) all conditions precedent for closing stipulated in the Japan-APA are either fulfilled or waived. While particularly important termination rights or conditions precedents to the closing of the business transfer (termination rights) are as described below, given that these termination rights have either been waived or expired, it is likely that the business transfer pursuant to the Japan-APA will be consummated.

(2) Obtaining consents from Non-Consenting OEMs

Under the Japan-APA, in connection with a certain agreement among KSS and OEMs which aim to allocate the potential risks in the future among KSS and OEMs, in case where a sufficient number of the OEMs who had not been parties to such agreements at the time of the execution of the Japan-APA ("Non-Consenting OEMs") do not become the parties to such agreements by January 2, 2018, KSS may have terminated the Japan-APA (4.4(d)(ii) of Japan APA). However, up to the date hereof, it has already become clear that such termination right does not accrue.

(3) Obtaining consents from DOJ and NHTSA

Whereas the business of the Rehabilitation Debtor Group has been supervised and monitored by each of NHTSA and DOJ pursuant to the Consent Order and the Plea Agreement respectively, one of the conditions precedent under the Japan APA for KSS to consummate the business transfer is that KSS has secured written agreements with DOJ and NHTSA to narrow the scope of such supervision and monitor, (Article 9.1(o) of Japan-APA). While such termination right has certain periodic limitation, KSS has not terminated by such period on ground that KSS had reached certain agreement with each of DOJ and NHTSA respectively. Accordingly, to the date,

KSS has already been deemed to waive this condition precedent.

(4) Summary

As stated above, there is a sufficient likelihood the business transfer based on the Japan-APA is likely to be implemented.

7. Amendment agreements

Amendments to the Japan APA have been executed for the sake of extension of period needed for obtaining the consents from Non- Consenting OEMs to become parties to the IRA (First Amendment to Asset Purchase Agreement dated December 3, 2017 (Exhibit 2), Second Amendment to Asset Purchase Agreement dated December 25 (Exhibit 3) and Third Amendment to Asset Purchase Agreement dated January 15, 2018 (Exhibit 4), which is to decrease the amount of the Break-Up Fee (Article 4.6 of Japan-APA) reflecting the opinion of the US Bankruptcy Court). Since the contents of such amendments are reasonable respectively, executions of each of the amendments are necessary and appropriate.

8. Rehabilitation plan based on the completion of the business transfer pursuant to the Japan-APA is likely to be confirmed.

(1) Summary of the contemplated rehabilitation plan following the completion of the business transfer to KSS

The rehabilitation debtor contemplates, on the assumption of the completion of the business transfer to KSS, that it will develop a liquidation-type rehabilitation plan in which the rehabilitation debtor will dissolve/liquidate after distributing to rehabilitation creditors the amount which have been deducted certain amount stated in the following 8 (2) from the Business Transfer Price after

Adjustment.

As described in the following (2), the contemplated rehabilitation plan satisfies the principle of assurance of liquidation value, further, the rehabilitation plan will include certain provisions to take into account the interests of the creditors other than the OEMs. That is, as described in the aforementioned 5 (3) and (4), the rehabilitation debtor will make payment the DOJ Restitution Payment and the RTK Payment from the Business Transfer Price after Adjustment. Such payments are imperative to globally restructure and maximize the business value of the rehabilitation debtor and maximize the amount available for distribution to all creditors, and therefore, it the payments are necessary to ensure the interests of the entirety of the creditors. However, from the perspective of equity, for the purpose of providing additional protection to the interests of the creditors other than the OEMs, the rehabilitation plan will provide that the OEMs shall not be entitled to receive any additional recoveries on account of their rehabilitation claims against the rehabilitation debtor until other creditors receive distributions on account of their allowed claims in an amount that results in the same recovery rate as that for OEMs (catch-up rule), and the OEMs have agreed to support it.

(2) Rehabilitation plan satisfies the principle of assurance of liquidation value

Assuming that the rehabilitation debtor goes bankrupt and liquidates the business without the business transfer, as shown the Asset Valuation Report attached as Exhibit 7, the bankrupt/liquidating distribution ratio will be approximately 0.94 % because the aggregate amount of the available fund for distribution will be approximately JPY 10.121 billion, while the total amount of rehabilitation claims is approximately JPY 1,075.564 billion (provided, however, that such amount includes approximately JPY 246.365 billion, as the amount of the Recall Claims that have not become subject to the recall regarding the PSAN Inflator as of August 25, 2017 (the

"Gamma Recall Claims"). However, as explained below, the rehabilitation plan satisfies the principle of assurance of liquidation value because the percentage of distributions against common rehabilitation creditors in rehabilitation proceedings exceed such percentage of bankrupt/liquidating distributions. The liquidating distribution ratio (the percentage of payments) in bankruptcy proceedings or rehabilitation proceedings is determined by (i) the amount of claims subject to the distributions (payments) and (ii) the amount of the available fund for distributions. First, with respect to (i), the amount of claims subject to payment in rehabilitation proceedings depends on, among other things, whether claims disputed are confirmed or not, but, basically, claims confirmed in rehabilitation proceedings would be confirmed in bankruptcy proceedings as well. However, in the bankruptcy procedure, there will be distributions to the Gamma Recall Claims or claims submitted by DOJ (excluding DOJ Restitution Payment), while there will not be any distributions in the civil rehabilitation procedures. As such, the amount of the claims to be distributed will be larger in bankruptcy procedure than civil rehabilitation procedure. Next, with respect to (ii), the amount of available funds under the liquidation scenario would be approximately JPY 10.121 billion, as stated above. In comparison, the amount of available funds upon the consummation of the business transfer to KSS would be the amount remaining after deducting (d) the claims with priority such as administrative claims from the sum of (a) the Business Transfer Price after Adjustment, (b) excess cash held by the rehabilitation debtor from prior to the business transfer, and (c) the estimated amount of recoveries, on account of rehabilitation claims or distributions, that the rehabilitation debtor is to receive from TK9 and TKS which are not insolvent subsidiaries. Such amount is expected to exceed JPY 18 billion based on the current forecast of the cash flow (provided, however, that as a result of the aforementioned catch-up rule being applied, the sum of the Allocated DOJ Payment (approximately 113.2 million US dollars) and RTK Related Costs (approximately 44.6 million US dollars) (i.e., approximately

157.8 million US dollars) will be deemed equivalent to the recovery on account of the OEMs' rehabilitation claims, the rehabilitation creditors other than the OEMs will be able to receive prioritized repayment up to the same recovery rate at which the OEMs receive the payment from the aforementioned sum (i.e., approximately 157.8 million US dollars) (calculated based on the conversion rate of 1 US dollar to 113 yen; provided, however, that all of these amounts are mere forecasts at this time, and any of such amounts could fluctuate based on the cash flow and operations, etc. of the entire Rehabilitation Debtor Group in the future). Accordingly, the percentage of distributions in the rehabilitation plan is believed to be higher than the percentage of bankruptcy/liquidation distributions, and it is, therefore, apparent that the percentage of the distributions in the rehabilitation plan under the business transfer to KSS satisfies the principle of assurance of liquidation value.

As stated in 5(3) and (4) above, as it is planned that the catch-up rule will be applied, we believe that payment of the Allocated DOJ Payment and the RTK Related Costs will not affect the percentage of the distributions to the rehabilitation creditors other than the OEMs.

(3) Rehabilitation plan satisfies the other requirements

In addition to the preceding (2), there are no facts in proposed rehabilitation plan applying to "contravene provisions of any laws" (Article 174(2)(i) of Civil Rehabilitation Act) nor "unlikely to be consummated" (Article 174(2)(ii)) nor "contrary to the common interest of rehabilitation creditors" (Article 174(2)(iv)).

9. Conclusion

As stated above, the business transfer based on the Japan-APA is necessary and appropriate, and is likely to be implemented, further, rehabilitation plan with the business transfer is likely to be

made an order of confirmation. Accordingly, I hereby file this petition.

Exhibit

1. Japan Asset Purchase Agreement
2. First Amendment to Asset Purchase Agreement
3. Second Amendment to Asset Purchase Agreement
4. Third Amendment to Asset Purchase Agreement
5. Transferred entities and the method of transfer to KSS
6. Summary of Japan-APA
7. Asset Valuation Report

IN THE MATTER OF APPLICATION OF AN APPLICATION BY TK HOLDINGS INC.
AND TAKATA CORPORATION UNDER SECTION 46 OF THE COMPANIES'
CREDITORS ARRANGEMENT ACT

Court File No. CV-17-11857-00CL

**ONTARIO SUPERIOR COURT OF JUSTICE
(COMMERCIAL LIST)**

Proceeding Commenced at Toronto

**JAPANESE SALE APPROVAL
RECOGNITION ORDER**

McCarthy Tétrault LLP

Toronto Dominion Bank Tower
Toronto, ON M5K 1E6
Fax: (416) 868-0673

Heather Meredith LSUC#: 48354R

Tel: (416) 601-8342
Email: hmeredith@mccarthy.ca

Eric S. Block LSUC #: 47479K

Tel: (416) 601-7792
Email: eblock@mccarthy.ca

Trevor Courtis LSUC#: 67715A

Tel: (416) 601-8342
Email: tcourtis@mccarthy.ca

Adrienne Ho LSUC#: 68439N

Tel: (416) 601-8919
Email: aho@mccarthy.ca
Lawyers for the Foreign Representatives
DOCS 17757403

9:30 A.M.

COUNSEL SLIP

H

COURT FILE NO CV-17-11857-00CL

DATE MAY 17, 2018

NO ON LIST 4

TK HOLDINGS INC et al.

TITLE OF
PROCEEDING

COUNSEL FOR: Heather Meredith
PLAINTIFF(S) for Applicants
APPLICANT(S)
PETITIONER(S)

PHONE & FAX NOS
416-601-8342
416-868-0673
hmeredith@mccathay.ca

COUNSEL FOR:
DEFENDANT(S)
RESPONDENT(S)

Scen Zweig
For the Information
OFFICER

PHONE & FAX NOS
T: 416-777-6254
F: 416-863-1706
E: Scen.Zweig@bennettjcars.com

Rachel Bengino
Per Plan Sponsor

T: 416 304 1616
F: 416 304 1313
E: rbengino@tgf.ca

May 17, 2018

I am satisfied that
this Motion should be
granted on the terms
of the attached Order
recognizing the Japanese OVER

Sale approved.

Henry J.

o/er